

メディア科学リサーチセンター視聴覚コア・ワークショップ「聴覚皮質研究会」

平成20年度メディア科学リサーチセンター視聴覚コア・ワークショップ「聴覚皮質研究会」は、日本音響学会聴覚研究会と共催で、平成20年11月28、29日に本学総合研究実験棟9Fセミナー室で開催された。発表は一般講演が16件で、参加者は29日が23名（内本学9名）、29日は25名（内本学11名）であった。

発表タイトルと発表者を以下に記す。大脳皮質と視床における聴覚と体性感覚の接点（木村晃久、和歌山医大）、下丘上丘経路における空間表現：ニューロン集団による符号化（古川茂人、NTT、CS研）、聴覚事象関連電位のモデル化（杉本俊二、豊橋技科大）、スナネズミのコミュニケーション音声の発声メカニズム（西山耕平、同志社大）、合成言語音の弁別学習におけるラット聴覚各領野の役割（工藤雅治、帝京大）、日本語母語話者の非母語子音クラスター中への母音添加（船津誠也、広島大）、音に対する空間選択的注意の効果のMEGとEEGによる解析（猪狩えみ、豊橋技科大）、無麻酔、非拘束下モルモットにおける聴覚野細胞反応の特性（小島久幸、東京医歯大、覚醒ネコ第一次聴覚野における持続性、一過性反応細胞の機能的差異（佐藤悠、山梨大）、聴覚野のマルチユニット活動の解析（高橋宏知、東京大）、ラット聴覚野からの多チャンネル誘発電位計測に向けた表面電極の開発（加藤康広、NTT、CS研）、光信号から見た一次聴覚野の周波数弁別能（齋藤和也、熊本大）、音脈分凝の皮質機構：交代音に対するモルモットAI活動の光学的計測（堀川順生、豊橋技科大）、光学的計測による聴覚および視覚刺激に対するモルモット大脳皮質の応答マップ（山田真矢、豊橋技科大）、光学的手法によるモルモットAIにおけるオン応答後の遅延興奮活動の時空間パターンの計測（堀越健司、豊橋技科大）、恐怖条件付けによりモルモット聴覚野に生じる可塑的変化の光計測（井出 吉紀、玉川大学）。